Japan Society of Obstetrics and Gynecology

309 性器クラミジア感染症における内性器以外の部位（尿道，直腸，咽頭，眼結膜）からのクラミジアの検出に関する検討

長崎市 もとむら産婦人科医院
本村 龍太郎

［目的］性器Chlamydia trachomatis（クラミジア）感染症の内性器以外の部位におけるクラミジアの検出と実態について，検討した。
［方法］ 1.クラミジア抗原あるいは核酸の検出はMicro Trak法（子宮頸管），ＩＤＥＩＡクラミジア法（子宮頸管），ＤＮＡプローブ法（子宮頸管，尿道，直腸，咽頭，眼結膜）およびＡＭＰＬＩ－ＣＯＲ法（子宮頸管，尿道，直腸，咽頭，眼結膜）で行なった。 2.抗クラミジア血清特異 IgA，IgG および IgM抗体価はセロ イパライザ法で測定した。
［成績］ 1．性器クラミジア感染症（97例）における他の部位からのクラミジア検出率は直腸 55.6％，尿道51.5％，咽頭6.6％ および眼結膜 0.0％であった。 2． 直腸クラミジア陽性例のうち，直腸炎症状は18.3％に，直腸鏡炎症所見は33.3％にみられた。 3.尿道クラミジア陽性例のうち，尿道膀胱炎症状は35.8％に，尿沈渣炎症所見は60.7％にみられた。 4．抗クラミジア抗体価の経日的推移より，子宮→尿道→直腸への炎症の進展が推定された。 5．子宮頸管（37例）におけるクラミジア検出率はAMPLICOR法100％,IDEIA法86％，Micro Trak法81％およびＤＮＡプローブ法70％であった。 6．治療により，クラミジアは子宮頸管と他の部位より同時期に消失する例（95％）が殆どで，一部の例（５％）では子宮頸管より他の部位の消失が早かった。
［結論］性器クラミジア感染症では，内性器以外の部位からもクラミジアが同時に検出されることが多く，直腸炎や尿道膀胱炎症状を示す例もみられた。治療により，子宮頸管と他の部位におけるクラミジアは同時期に消失する例が殆どだった。

310 血清抗クラミジア抗体陽性を示した不妊患者の臨床成績

愛媛労災病院
南條和也、大塚恭一、宮内文久

【目的】不妊患者の血清抗クラミジア抗体を測定し、抗体陽性率と卵管性不妊との関連性ならびに妊娠成績について検討した。【方法】平成 5年4月より平成 7年 9月までに当科を受診した不妊患者 134名を対象とした。血清抗クラミジア IgG、IgA抗体はヒタザイム法にて測定した。全例に子宮卵管造影（HSG）を施行した。【成績】IgGとIgA抗体が共にないしは単独で陽性を示した症例は 33例（24.6%）であった。IgG、IgA両方とも陽性を示した 21例では、13例（61.9%）に HSGで異常所見を認め、通常の不妊治療（IVF-ET以外）による妊娠例は 3例（14.3%）であった。IgG陽性、IgA陰性を示した 6例では、4例（66.7%）にHSGで異常所見を認め、妊娠例は認められなかった。一方、IgG陰性、IgA陽性の 6例には、HSGで異常所見を認めた症例はなく、5例（83.3%）が妊娠にいたった。IgG、IgAともに陰性を示した 101例では25例（24.8%）に HSGで異常所見を認め、33例（32.7%）が妊娠にいたった。なお、HSGで異常を認めなかった症例のうち IgG陽性例では妊娠にいたった症例は認められなかったが、IgG、IgA両方陰性の 76例では 30例（39.5%）に妊娠が認められた。また、IgA陽性、IgG陰性例では 5例妊娠したが 4例（80.0%）流産した、一方、IgA陰性例では 33例中 4例（12.1%）が流産したのみであった。【結論】IgG抗体陽性例では HSGの異常所見が多く観察され、通常の不妊治療では妊娠しがたい傾向が認められた。さらに、IgG抗体陽性例ではHSGに異常所見が観察されなくても、通常の不妊治療では妊娠する可能性は少ないと考えられた。また、IgA陽性例では容易に妊娠するものの流産にいたる危険性が高いことが示唆された。

NII-Electronic Library Service